

2022年2月25日

健康福祉サービス第三者評価結果 公表 共通様式

1 事業者情報

福祉サービスの種別	保育
事業所名	レイモンド瀬田こども園
代表者氏名（管理者）	園長 廣嶋 里栄子
法人名	社会福祉法人 檸檬会
定員（利用人数）	75名（74名）
施設・事業所所在地	滋賀県大津市大江4丁目12-34
T E L	077-543-5811
F A X	077-523-5812
電子メール	<a href="mailto:Leimondo-seta@lemonkai.or.jp">Leimondo-seta@lemonkai.or.jp</a>
ホームページアドレス	<a href="http://lemonkai.or.jp">http://lemonkai.or.jp</a>

2 第三者評価機関

第三者評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
評価実施期間	2022年2月2日と2月14日（オンライン調査）

## ○ 総合評価

社会福祉法人檸檬会は、全国に60を超える保育園・こども園を運営し、滋賀県内では保育園が6か所、こども園が3か所あり、ソーシャルイノベーションを生み出して社会貢献を果たし、より多くの方と幸せを分かち合える社会づくりを目指している。当法人は保育サービスの質向上を目指して第三者評価調査を3～5年ごとに受審されており、当園は2回目の受審である。

当園は、短期的な結果を求めめるのではなく、すべての子どもに対して、法人理念である生涯消える事の無い“3つの心”（檸檬の心）を基に、教育・保育に努めている。

### ① 人・命を愛する心

・保育教諭等との関係の中で自分の気持ちや考えを安心して表す事ができる魅力ある環境を設定し、関わりを考えていく。

・全ての命を尊重し、思いやりの気持ちを持つ。

・自主、自律、協調性を養う。

### ② 自然と共に生きる心

・日々の散歩の中で季節の移り変わりや自然に親しみ実体験の中で五感を育む。

・意欲と興味を持つ環境を用意し、楽しい活動の中から心身ともに調和のとれた発達を促し、発見する面白さ、命の尊厳を知るという「感動」の機会を大切にする

### ③ 想像(創造)する心

・絵本や読み聞かせの中から想像力と心の成長を促し、遊びや人とのかかわりの力となるよう、豊かな情操と創造性を培う。

・自分の持つ未知の可能性を発見し、それに向かって挑戦する心を援助し、達成する喜びから夢を抱ける心を育む。

園長以下全職員が一致して子ども達の教育・保育に努め、広い園庭にも恵まれて元気で明るい子ども達が育まれている幼保連携型認定こども園である。

## ○ 特に評価の高い点

### 1、明るく元気な子ども達がすくすくと育っている

当園は広い園庭に沿って2階建ての園舎で一階は0～2歳児用に、2階は3～5歳児用で、乳児の保育には**育児担当制**を取り入れ、特定職員との愛着関係を築き、一人ひとりの異なる個性やサイン、甘えなどを受け入れて子どもに寄り添った保育をし、細やか保育を実施している。

幼児については**縦割り保育**に取り組んでいて、各年齢毎に環境スケール活動でより工夫された遊びコーナーが設営されている。縦の子どものつながりの中で遊びを選択し居場所を見つけて遊び始める子ども達が多く、支援児達も自分の居場所を選べる環境があり、子ども達その日の気持ちにあった環境の中で安定して過ごせる状況にある。一人一人の個性を認め合いながら自然なつながりもうまれてくる。

## 2、環境スケール

選ばれたものがチームで活動する業務で、各クラスの環境設定や子どもの導線を観察することで、今以上の環境構成を提案するシステムである。

結果をみんなで協議することにより、一つの保育や環境設定を通して環境構成を考える自分の見方が分かり、気づかなかったことや、反省や前進の意欲がより良い保育環境作りへと繋がっていく。提案することで基本的な環境の見方が学習できる。子ども達だけでなく、職員にとっても前進できる良い手法となり、全職員の仲が良いのも一つのベースになっているのであろう。

## 3、食育について

給食を楽しむ工夫や子どもが美味しく食べる事ができる食事の提供が素晴らしく食育に力を入れ、園内の畑での栽培を全園児で楽しんだり、調理室では年長児のリクエストを取り入れメニュー変更して提供したり、嫌いな食べ物を工夫して提供する調理場やランチルームでの職員のさりげない工夫が子ども達の食欲をそそる。

自分でおなかだ空いたと感じた子から順にランチルームに来て食べる方法も素晴らしく、食べ終わったら食器を洗淨用籠に持って行き形の同じものを積み上げて行くなど食器を丁寧に扱うマナーも自然に身につけている。

## 4、なんだろうその先へ

様々な遊びの中から、子ども達が抱く探究心を、その先へ導く存在でありたいと願う職員の柔軟な心が、子ども達のやりたい気持ちを引き出している。

### ○改善を求められる点

#### 1、保護者とのコミュニケーションについて

コロナ禍のため園内に入ることは制限され、職員と関わる事が少なくならざるを得ない状況になっている。送迎時も玄関までとなっていて子どもたちの様子も分かりにくく、職員との話合いも難しく不安感を持っている保護者もいるので、DXの活用でこの壁を乗り越えて頂きたい。

#### 2、地域とのつながりを再復活させるために

コロナ禍の中で、地域とのつながりが希薄になってくるのは仕方がないが、普段の生活に戻ることを期待しつつ、その時が来たら始動できる体制を準備して、つながりを少しでも保てるような連携を構築してほしい。

#### 3、中長期目標策定について

これからの地域状況は、コロナ禍防御態勢確立のためリモートワーク等いろいろの要素で雇用条件等が変化し、子どもの出生数の変化や子育て支援希望の増加などが激しくなることが予想される。これに対応して全国展開されている貴法人であることから、本部中心に各園の中長期目標設定の早期実現を期待したい。

### ○第三者評価結果に対する事業者のコメント

第三者評価を受審させていただきますのは今回で2回目となります。前回に評価して頂いたのは開園後間もない時でしたが、その時に評価して頂いたことは継続する事、また改善を求められたことについて真摯に受け止め実践して参りました。今回の受審では、職員と共に自己評価を行い、自分達の保育や保護者との関わりなど多岐に渡り、振り返りを行うことが出来ました。そこでの気づきが多々ありました。

評価結果については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、WEBでの園内見学や聞き取りになりましたが、丁寧で細かく見て下さったことがコメント内容で伝わり感謝しております。自分達では気付いていなかったことにも知ることが出来ましたので、すぐに改善して参ります。

これからも、子ども達の為に保護者の方々や各種関係機関の方々、地域の皆様と力を合わせ、日々精進して参ります。